

捕獲等事業評価シート

様式

(栃木県 環境森林部自然環境課)

STEP 1 予定通りの作業ができたか、効率的な捕獲ができたか評価する。

■ 事業概要

| | |
|--------|---------------------|
| 事業実施地域 | 栃木市・小山市（思川） |
| 事業主体 | 栃木県自然環境課 |
| 事業実施期間 | 令和6年12月18日～令和7年3月7日 |
| 捕獲手法 | くくりわな、箱わな |
| 事業メニュー | ③メニュー市町村連携タイプ |
| 事業費 | 4,184,105円（※） |

（※）捕獲コスト把握のため本事業地にかかる事業費のみ記載

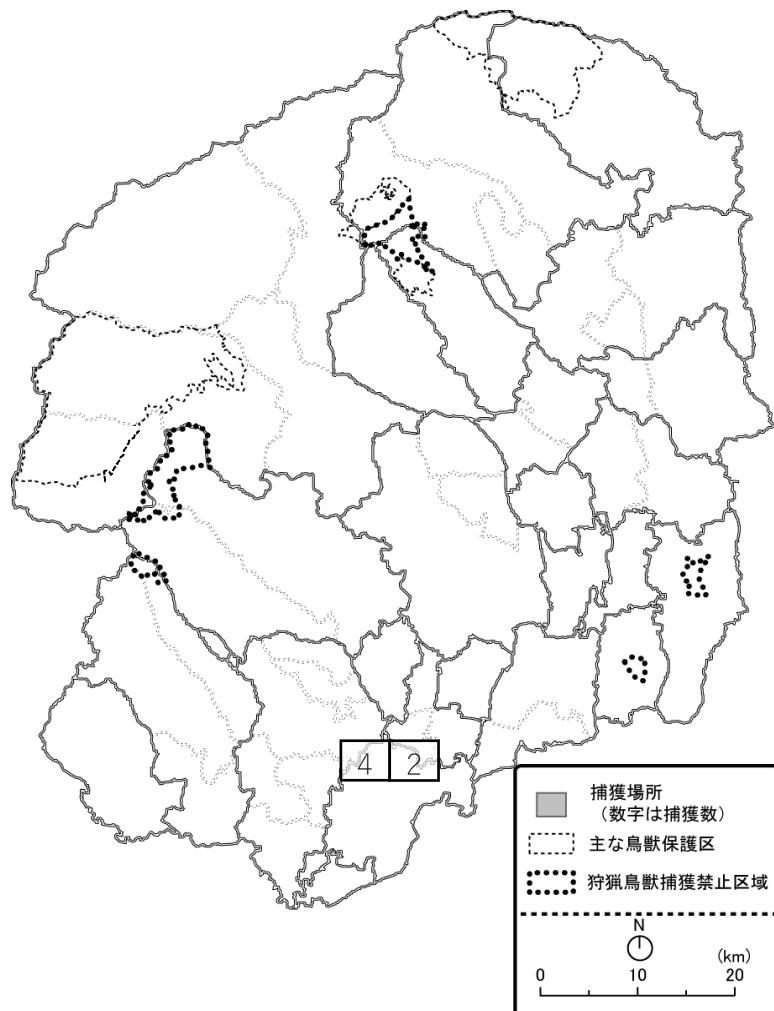
■ 事業の評価

| 評価項目 | 当初予定 | 実績 | 評価 |
|-----------|---|------------------------------------|---|
| 捕獲目標 | 合計 20 頭 | くくりわな：3頭 箱わな：3頭 (※) 手法別に記載。 | 捕獲目標の達成率は 30% であった。目標が達成できなかった理由として、地元からの要望を受け新たに捕獲を行った箇所について、出没・被害の多い時期と捕獲実施期間にずれがあったため、捕獲効率が悪かったことが考えられる。 |
| 捕獲作業量 | くくりわな：2,900 台日 箱わな：500 台日 | くくりわな：2,920 台日 箱わな：508 台日 | 計画通りの作業量を投じることができた。 |
| 効率的な捕獲 | (昨年度事業の捕獲効率) くくりわな：0.002 頭/台日 箱わな：0.008 頭/台日 (同地域での有害捕獲による捕獲効率) くくりわな：0.001 頭/台日 箱わな：0.006 頭/台日 (※) 同地域での狩猟での捕獲効率や、昨年事業の捕獲効率等を記載。 | くくりわな：0.001 頭/台日 箱わな：0.006 頭/台日 | 捕獲効率が昨年度よりも低かった理由として、地元からの強い要望を受け捕獲場所を一部変えるに至ったが、当該箇所における出没・被害の多い時期と当該事業による捕獲実施期間にはずれがあったため、効率的な捕獲ができなかつたものと考えられる。 一方で、同地域での有害捕獲による捕獲効率とは同程度であり、特別効率が悪かったとは考えられない。 |
| 事業に要した人員数 | 222 人日 | 222 人日 | 予定通りの人員数を投じて作業を実施した。 従事者 1 人当たりの捕獲数は 0.03 頭であった。 |
| 安全管理体制 | 指定管理鳥獣捕獲等事業計画として提出 | 提出した計画に沿って作業を行った。人身事 | 安全に予定通りの計画で事業は遂行された。 |

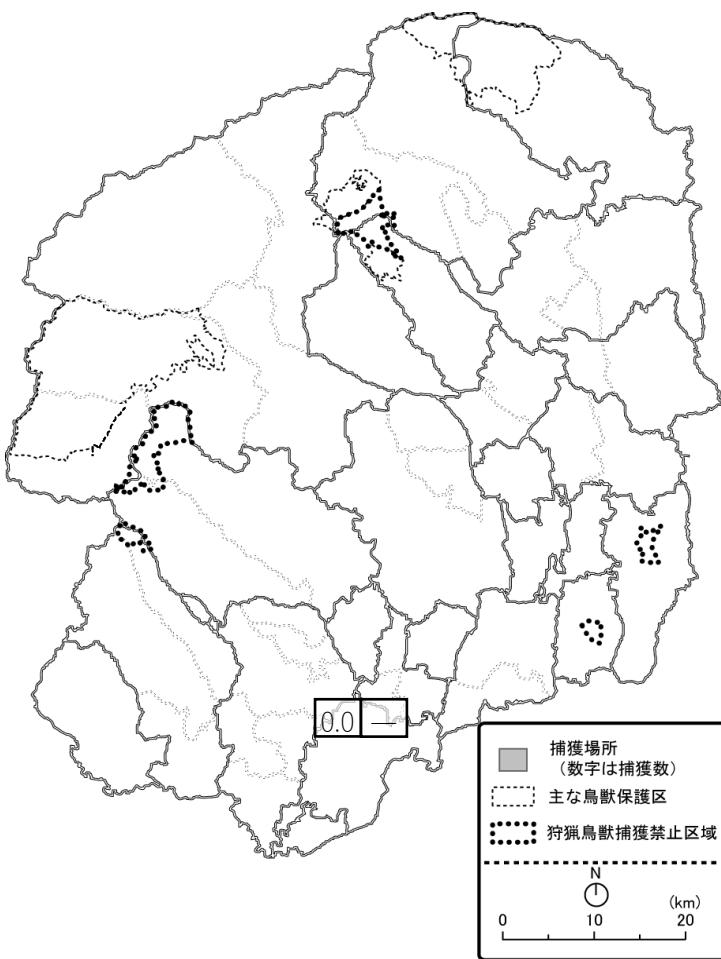
| | | | |
|------------|--|--|--|
| | | 故やその他の事故は発生しなかった。 | |
| 捕獲個体の処分方法 | 指定管理鳥獣捕獲等事業計画に記載したとおり、放置せず全て搬出し、焼却により適切に処分。 | 提出した計画に沿って作業を行った。 | 予定通りの計画で事業は遂行された。 |
| 環境への影響への配慮 | 誤認捕獲された場合は原則放棄 | 誤認捕獲された場合は原則放棄 | 予定通りの計画で事業は遂行された。 |
| 捕獲個体の属性 | <ul style="list-style-type: none"> ・オス 8 頭、メス 5 頭 ・成獣 11 頭、幼獣 2 頭 (※) 昨年度事業等の結果を記載。クマについては年齢(成獣、亜成獣等)、子連れ、雌雄等の別を記載。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オス 2 頭、メス 4 頭 ・成獣 6 頭、幼獣 0 頭 | 昨年度よりもメス及び成獣の割合が増えており、個体数を減らす上で効果的な捕獲ができたと考えられる。 |

■ 添付図面（地点（緯度経度）地図/5 km メッシュ地図/1 km メッシュ地図）

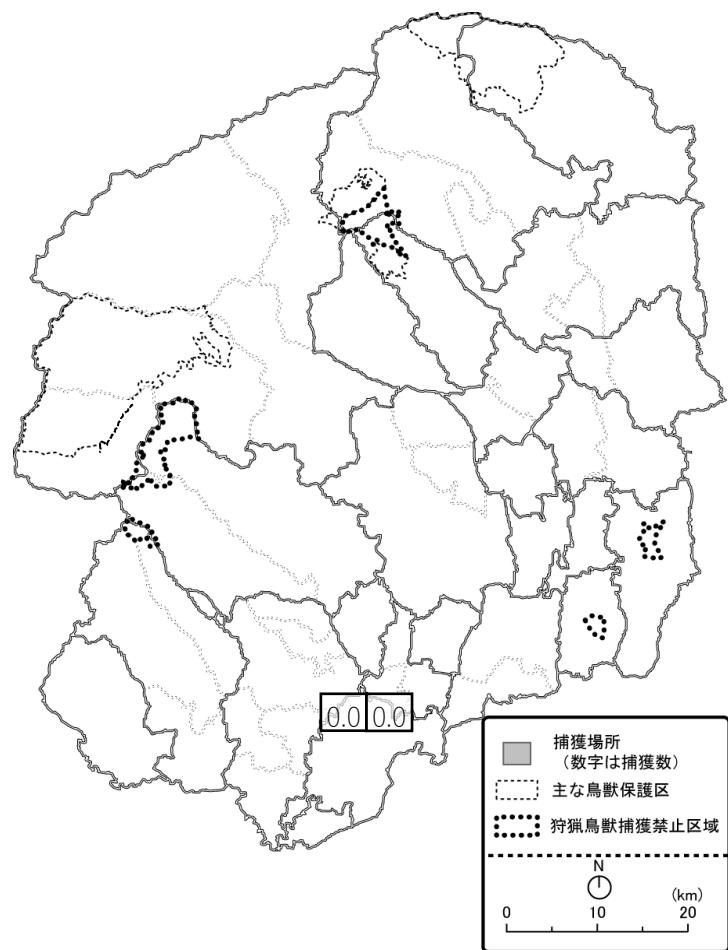
- ・ 捕獲数とその位置を落とした図（必須）
- ・ 捕獲開始経過日数と捕獲数の関係の図（いつ頃どれくらい捕獲できたかが分かる）、CPUE（単位努力量あたりの捕獲数）の推移
- ・ SPUE（単位努力量あたりの目撃数）の地図



図－1 令和6(2024)年度指定管理鳥獣捕獲等事業
捕獲位置



図－2 令和6(2024)年度指定管理鳥獣捕獲等事業
CPUE (くくりわな)



図－3 令和6(2024)年度指定管理鳥獣捕獲等事業
CPUE (箱わな)

| 思川地区 | | 12月 | | | 1月 | | | 2月 | | | 3月 | | |
|------|------|-----|--------|----|----|--------|------------|--------|----|--------|----|----|----|
| | | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 大光寺 | わな稼働 | | | | | | | | | | | | |
| | 捕獲 | | 1(メス成) | | | 1(メス成) | 2(オス成・メス成) | | | | | | |
| 東島田 | わな稼働 | | | | | | | | | | | | |
| | 捕獲 | | | | | | | 1(メス成) | | 1(オス成) | | | |

表－1 令和6(2024)年度指定管理鳥獣捕獲等事業 捕獲開始経過日数と捕獲数の関係

STEP 2 捕獲によって出没（密度）や被害が減少したかを検証する。

■ 事業実施地域

| |
|-------------|
| 栃木市・小山市（思川） |
|-------------|

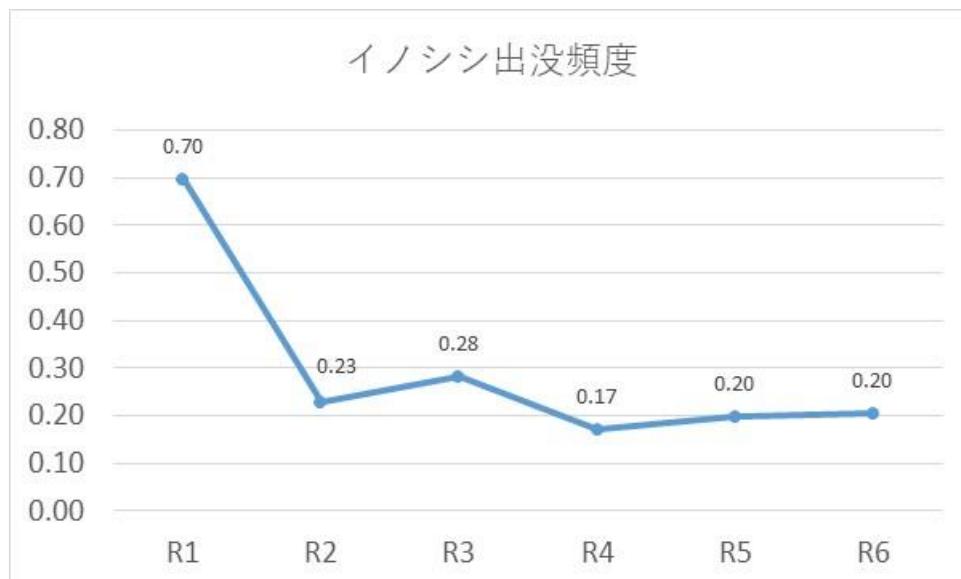
■ 出没（密度）

| 評価項目 | モニタリング項目・方法・情報 |
|-------------------|--|
| 事業実施前もしくは事業開始時・前半 | <ul style="list-style-type: none"> センサーカメラによる撮影頻度（事業開始時（R元年度）） 0.70回/カメラ台日 ・出没件数「多」 センサーカメラによる撮影頻度（当該年度事業実施前（R5年度）） 0.20回/カメラ台日 ・出没件数「少」 |
| 事業実施後もしくは事業終盤・後半 | <ul style="list-style-type: none"> センサーカメラによる撮影頻度（当該年度事業実施後（R6年度）） 0.20回/カメラ台日 ・出没件数「少」 |
| 評価 | 当該地域は平成30年度から指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲を継続しており、捕獲実施初期の令和元年度と比較するとイノシシの出没頻度は低い水準を維持することができている。 |

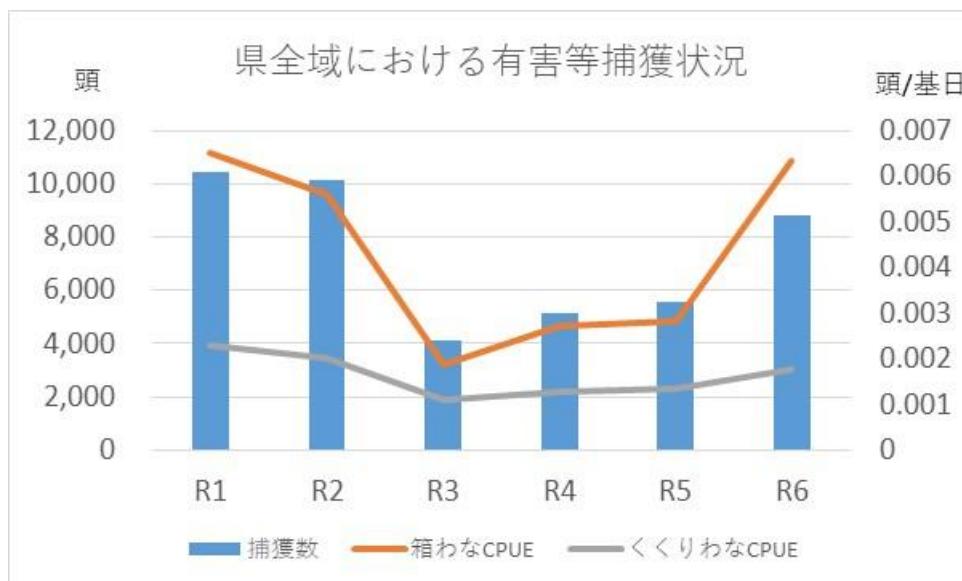
■ 被害

| 評価項目 | モニタリング項目・方法 |
|------------------|-------------|
| 事業実施前もしくは開始時・前半 | |
| 事業実施後もしくは事業終盤・後半 | |
| 評価 | |

■ 添付図面



図－4 捕獲実施地域におけるイノシシの出没頻度の推移



図－5 栃木県全域におけるイノシシの捕獲数・捕獲効率の推移

STEP 3 評価の結果を踏まえて、次年度事業の捕獲位置・時期・手法・従事者等の見直しを行う。

■ 捕獲等事業に関する評価及び改善点（STEP 1・2 の検証を踏まえて記載する。）

| | |
|---|---|
| 1. 捕獲に関する評価及び改善点* | |
| 【目標設定】 | 評価：目標達成率は30%であった。目標達成に及ばなかった理由として、地元からの強い要望を受け捕獲場所を一部変えるに至ったが、当該箇所における出没・被害の多い時期と当該事業による捕獲実施期間にはずれがあったため、効率的な捕獲ができなかつたものと考えられる。 改善点：今回新たに捕獲を実施した箇所については、出没・被害の多くなる夏期に捕獲を実施する必要がある。 |
| 【実施期間】 | 評価：基本的には餌が少なくなる冬期を中心とした実施であり、適切と思われるが、今回新たに捕獲を実施した箇所については、出没・被害の多い時期と捕獲実施期間にずれがあった。 改善点：一部地域については、出没・被害の多くなる夏期に捕獲を実施することで被害を効果的に抑えられると考えられる。 |
| 【実施位置】 | 評価：実施区域はイノシシの生息地となっており、周辺農地への農業被害や集落への出没に伴う人身被害が懸念される場所であり、また場所の選定にあたっては地元からの要望も考慮しており、適切であると思われる。 改善点： |
| 【捕獲手法】 | 評価：いずれの箇所も地形の要因や人の入り込みがある等により銃猟の実施は難しい場所であるため、適切と思われる。 改善点： |
| 【捕獲コスト】 | 評価：捕獲効率は昨年度よりも低かったものの、同地域における有害捕獲による捕獲効率とは同程度であり、特別効率が悪かったとも言えない。 改善点：捕獲実施箇所と時期の組み合わせを見直すことで改善の余地がある。 |
| 2. 体制整備に関する評価及び改善点 | |
| 【実施体制】 | 評価：捕獲従事者について必要な人数を確保するとともに、2名以上の体制で安全に捕獲を実施しており、特段の問題はないと思われる。 改善点：特になし |
| 【個体処分】 | 評価：捕獲個体は、放射性物質の基準値超過に伴う出荷制限がされているため、すべて焼却により適切に処理している。また、豚熱の発生区域からの持ち出しあないため、防疫の観点からも適切に処理されている。 改善点：特になし |
| 【環境配慮】 | 評価：わなによる錯誤捕獲があった場合に、ニホンジカを除き原則として放棄することとしており、特段の問題はないと思われる。 改善点：特になし |
| 【安全管理】 | 評価：捕獲の実施にあたっては自治会へ事前に了承を得ているほか、表示板等による注意喚起等の安全対策を講じており、事故の発生や地域住民からの苦情もなく、適切に実施している。 改善点：特になし |
| 3. その他の事項に関する評価及び改善点 特になし | |
| 4. 全体評価 ・捕獲目標は達成できず、CPUE も昨年度より低下した結果となった。 | |

- ・当該事業における CPUE を地域値と比較すると、くくりわな・箱わなとも地域値と同等であった。昨年度までは地域値が当該事業の CPUE より下回る状況であったことから、市町における有害捕獲の CPUE が向上したと考えられる。
- ・イノシシの出没頻度は令和 2 年度に大きく減少しており、その後横ばいで推移している。
- ・令和 2 年度の大きな現象は豚熱発生による影響と考えられ、これは県全域におけるイノシシの状況と同様と考えられる。
- ・県全域における捕獲数及び CPUE の推移については、令和 3 年度に大きく減少し、その後増加傾向にあることから、豚熱の影響により大きく生息数が落ち込んだ後、生息数が再び回復しつつあることが推測される。
- ・一方、当該地域においては、令和 3 年度以降も撮影頻度が低い状態で推移していることから、市町村と連携し実施している当該事業による捕獲及び市の有害捕獲により、生息数の増加を一定程度抑えているものと考えられる。

■ 特定鳥獣保護・管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

| モニタリング項目・方法 | |
|--------------------|---|
| 特定鳥獣保護・管理 計画の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○イノシシ生息数 R4 年度末 : 9,328 頭 → R10 年度末 : 4,700 頭に半減 ○年間捕獲目標 4,600 頭 ○地域ぐるみの総合的な対策（捕獲・環境整備・防護）の推進 |
| 寄与状況の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・思川地区は、近年イノシシが上流部の生息地から移動してきて定着するようになった地域であり、市町村境の河川区域であることに加え、これまでのイノシシ捕獲の経験・ノウハウがなく、地域における捕獲体制が整っていないことにより、市による有害捕獲が進んでいなかった。 ・今年度の当該事業単独の捕獲数自体は大きいものではないが、当該事業を実施してきたことにより、県及び市町村連携のもと捕獲を推進する体制が整備され、地域全体の捕獲の底上げが図られてきたと考えられ、当該事業の効果は一定程度あったものと評価できる。 |